

香川大学 大学教育基盤センターニュース

No.7 令和元年5月

*Higher Education Center
Kagawa University*

香川大学 大学教育基盤センター
〒760-8521 高松市幸町1-1
Tel 087-832-1151～1154
Fax 087-832-1155
<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/>

目 次

1. 2019年度（令和元年度）の大学教育基盤センターの課題について.....	1
2. 全学共通教育の平成31年度実施に向けた研修会（FD）報告.....	3
3. FDスキルアップ講座報告.....	4
4. 平成31年度新任教員研修会報告.....	6
5. 新ネクストプログラム「ヒューマニティーズ（人文学）プログラム」のご紹介.....	8
6. 注目の全学共通科目のご紹介.....	9
7. ホームページリニューアルのお知らせ.....	10
8. 新スタッフからの一言.....	12

1. 2019 年度(令和元年度)大学教育基盤センターの課題について

大学教育基盤センター長 高橋 尚志

大学教育基盤センターでは、昨年度までにクォーター制の全学共通科目への適用などによる柔軟な学事暦や幅広い学びを保証するカリキュラム改革、より深い学びを提供する特別教育プログラム：ネクストプログラムの改革を行ってきました。本センターでは従来全学共通教育のみに実質的な責任を負ってきていましたが、この改革期を経て全学共通に軸足を置きながらも文字通り香川大学全体の教育基盤にウィングを広げて携わるようになったのです。今年度については昨年度までの成果を踏まえつつ、大学全体の改革の見据え次の7つの課題に取り組んでいくこととしています。

1. 第3期中期目標・中期計画の年度計画の円滑な実施
2. 全学共通科目におけるクォーター制運用を含む全学共通教育カリキュラム改革の円滑な実施と DRI 教育の推進
3. 第4期中期目標期間に向けた全学共通カリキュラム等の見直し
4. 大学教育基盤センター国際教育部の体制整備と、学生の英語力向上施策の実施：インターナショナルオフィスとの協力共同と TOEIC 得点向上策および TOEIC 300 点未満者への支援
5. ネクストプログラムの拡充：現行プログラムと新ヒューマニティーズプログラムの円滑な実施および DRI イノベーター養成プログラムの構築
6. 数理・データサイエンス教育の改革：情報リテラシーの再編
7. 主題 C－基礎科目の円滑な実施および次年度に向けた改善

まず、センターでは専門分野にとどまらない幅広い教養を身に付けさせることを第3期中期目標の柱にしています。第1課題にあげたものはそれ以下の課題すべてに関連する所ですが、中間評価に向けて検証を行いつつ着実な実施が求められています。つまりセンターの事業の中心です。第2課題で今年度は特に学問基礎科目の履修方法を改めた結果の検証、新設した学問の扉の検証などが求められます。また本学では全学の教育改革で DRI 教育を前面に押し立て、全学への波及を図ることを取り組んでいます。当センターではその中でも主題科目の改革と新規科目の実施を通じてとりわけベース部分であるところを推進しつつ、さらにより深く学びたい学生のニーズに応えるべく第5課題に掲げるネクストプログラムに新たなプログラム DRI イノベーター養成プログラムを設計し次年度への本格実施に向けて準備を進めることが課題となります。第5課題ではそれ以外に本年度からスタートしたヒューマニティーズ（人文学）プログラム、既存プログラムともあわせて着実に進めることが重要です。第3課題については、創造工学部等の完成年度後の種々の改善

ないし改編のため、次期第 4 期の中期目標期間を見据えたカリキュラム等の見直しを開始する時期になっており、ワーキンググループを立ち上げるなど検討をスタートすることとしています。第 4 課題については、インターナショナルオフィスとの協力共同が昨年度より進みつつある環境のもと体制の整備を進め、グローバルカフェの利活用を始め TOEIC 得点向上策を進めることが課題です。特に TOEIC が 300 点に満たない学生が昨年度の努力により前年より半減したものの未だ一定数残されているのも事実であり、一層の取組が求められます。第 6 課題に関して、全学的に数理・データサイエンス教育の充実を図ることが求められ、その基盤部分を現行情報リテラシーの改革を行うことにより保証し、かつ、ネクストプログラムの DRI イノベーター養成プログラムとも連動した高度な教育プログラムへもつなげる改革を行うことが予定されています。第 7 課題の主題 Cー基礎科目は、地域課題の中心的な授業科目であり全学必修としていますが、修了できない学生が多数存在します。まず円滑に進めるように指導しつつ、改善の方向についても検討を要するところがあります。

大学教育基盤センターの本年度の事業計画すべてに触れたわけではないですが、センター教職員一同、上述の課題や日常の全学共通教育の円滑な実施に邁進していく所存です。皆さま方におかれては、どうぞよろしくご指導ご鞭撻をお願いします。

2. 全学共通教育の平成 31 年度実施に向けた研修会(FD)報告

日時：平成 30 年 12 月 4 日（火）13:00～16:10 場所：教育学部 321 教室

今年も恒例の全学共通教育担当者向けの研修会が実施され、第 1 部 77 名、第 2 部 54 名の参加がありました。本年度から研究会の枠組みが大きく変わり、第 1 部、第 2 部ともに同じ教室で「DRI 教育の全学展開」をテーマに、議論を深めることになりました。



【第 1 部】DRI 教育の全学展開について理解を深めるべく、寛善行学長及び石井知彦創造教育部門長が登壇しました。報告者が着任して以来、学長がこの会に来られたのははじめてのことです。学長のお話では、国立大学を取り巻くシビアな状況についての的確な分析と、香川大学が生き残るために DRI 能力育成を軸とした取組がぜひとも必要だ！という熱弁が印象的でした。石井部門長からは、新設された創造教育推進部門の役割と位置づけ、DRI 教育についての展望についての説明があり、「DRI 能力の育成は全教員で取り組む課題」という点が強調されていました。続く質疑においてフロアから出た意見はおおむね肯定的であり、「さらにどのようなことが必要なのか」という問題が議論の中心となりました。現在改装中の「総合教育棟」のデザインに関わる教員から、「学生の発想をひきだす教室づくりをしているので、ぜひ見に来てほしい」という勧誘が行われる一幕もありました。

【第 2 部】第 1 部を前提として、全学共通教育の今後の展開について調査研究部委員（三宅岳史先生、小坂有資先生）からの報告がなされ、フロア全体でディスカッションを行いました。三宅先生からは DRI 能力の育成に、全学共通教育はいかに関わるかについて、説明をいただきました。簡潔にまとめますと、全学共通教育では主題 B の理念を徹底化することを目指しつつ、DRI のうち特に D（デザイン思考）にその照合点を見出す、という方針をとるということでした。小坂先生からは、主題 B で実施可能な課題探求型授業の事例紹介がありました。ディスカッションでは、「課題探求型授業にグループワークは必須か」、「主題 B はデザイン思考教育とイコールの関係にあるのか」等の問題をめぐって活発な議論が展開されました。



詳細は、『香川大学教育研究』第 16 号「全学共通教育の平成 31 年度実施に向けた研修会(FD) 報告」をご覧ください。Web でも PDF 版をダウンロードすることができます。

(<http://shark.lib.kagawa-u.ac.jp/kuir/detail/2865620190410131119>)

(文責：佐藤慶太)

3. FD スキルアップ講座報告

- 講座名：「日本語技法」をどう教えるか
- 日 時：平成 31 年 3 月 5 日（火）13:00～15:10
- 場 所：幸町北キャンパス 423 講義室
- 講 師：高水徹（香川大学インターナショナルオフィス講師）

この講座は、毎年三月に行われている大学入門ゼミ担当者向けの FD シリーズの一部をなします（3 月 7 日開催の「アカデミックスキルをどう教えるか」と対になります）。今年度は 8 名の参加がありました。講座は、アイスブレイクの後、①メールの書き方、②書き言葉による手順の説明、③推敲の技法、④比較・対象の技法、⑤箇条書きの技法、⑥要約の技法、という 6 つのコンテンツについて、ワーク体験を交えて教え方を学ぶ、という流れで進められました。各コンテンツに対応したワークについては『大学入門ゼミハンドブック』（授業担当者向けに大教センターで作成している冊子）に手順が載っていますが、実際に学生の立場でワークを体験してみると、教える際のポイントなどがより深く理解できるようです。高水先生は、アカデミックな場面で日本語を使う際に、学生がどういうところで躓くのか、また設定するゴールに応じて、どのように力点の置き方を変えるべきか等について、そのつどアドバイスをしてくれました。日本語の使い方は、大学での学び全体にかかわってきます。その意味で、大学入門ゼミ担当のためだけでなく、学生指導全般のためにも有益な講座でした。（文責：佐藤慶太）



- 講座名：「アカデミック・スキル」をどう教えるか
- 日 時：平成 31 年 3 月 7 日（木）13:00～14:30
- 場 所：幸町北キャンパス 423 講義室
- 講 師：葛城浩一・佐藤慶太（大学教育基盤センター准教授）・西本佳代（大学教育基盤センター講師）

「アカデミック・スキル」をどう教えるか」と題した本講座では、最初にアイスブレイクが行われた後、「情報整理の方法」、「レポートの書き方」、「プレゼンテーションの方法」を教える際のポイントを学びました。具体的な事例を交えた解説にくわえて、それぞれの方法を教えるための効果的なワークを、学生の立場になり体験しながら学びました。さらに、『大学入門ゼミハンドブック』（「大学入門ゼミ」担



当者向けに大学教育基盤センターが毎年刊行している冊子）の紹介があり、ハンドブックには「大学入門ゼミ」以外の授業でも参考になる様々な方法が記載されています、という説明もありました。最後の質疑応答の時間では、参加者が授業をしている中で感じている疑問などを交えた議論も行われていました。（文責：小坂有資）

■今後のスキルアップ講座の予定

新任教員研修会 「よりよい授業のためのFDワークショップ」		9月12日（木）～9月13日（金）
大人数講義をもっとうまくやるためのコツ	9月25日（水）13:00～14:30 幸町北キャンパス 423 講義室	
始めよう！アクティブラーニング型授業 －話し合いの技法－	9月25日（水）14:40～16:10 幸町北キャンパス 423 講義室	
始めよう！アクティブラーニング型授業 －教え合いの技法－	9月26日（木）13:00～14:30 幸町北キャンパス 423 講義室	
始めよう！アクティブラーニング型授業 －問題解決の技法－	9月26日（木）14:40～16:10 幸町北キャンパス 423 講義室	
事例から学ぶ問題発見・解決型授業のコツ	9月26日（木）16:20～17:50 幸町北キャンパス 423 講義室	
始めよう！アクティブラーニング型授業 －図解の技法－	9月27日（金）13:00～14:30 幸町北キャンパス 423 講義室	
始めよう！アクティブラーニング型授業 －文章作成の技法－	9月27日（金）14:40～16:10 幸町北キャンパス 423 講義室	
初心者のためのクリッカー講座	9月27日（金）16:20～17:50 幸町北キャンパス 423 講義室	
学生の学びを促すシラバスの書き方	1月6日（月）10:30～12:00 幸町北キャンパス 423 講義室	
基礎から学ぶ学習評価法	1月6日（月）13:00～14:30 幸町北キャンパス 423 講義室	
学生参加型授業の技法	1月6日（月）14:40～16:10 幸町北キャンパス 423 講義室	
シラバス・授業を改善しよう！	1月7日（火）10:00～15:00 幸町北キャンパス 423 講義室	
事例から学ぶ授業外学修促進のコツ	1月7日（火）15:30～17:00 幸町北キャンパス 423 講義室	
「アカデミック・スキル」をどう教えるか	3月3日（火）13:00～ 幸町北キャンパス 423 講義室	

4. 平成31年度新任教員研修会報告

日時：平成 31 年 4 月 8 日（月）9:30～17:10

場所：研究者交流スペース（研究交流棟 5 階）

【プログラム】

午前の部 9:30～12:00

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 1. 香川大学の教育について | 今井田克己（教育担当理事） |
| 2. 香川大学の研究及び教員評価について | 片岡郁雄（研究・産官学連携・教員
評価担当理事） |
| 3. 香川大学の地域連携推進について | 白木渡（産官学連携・特命担当副学長） |
| 4. 香川大学のコンプライアンスについて | 真鍋光輝（総務・労務担当理事） |
| 5. 各部局からの事務説明 | |

午後の部 13:30～17:00

- | | |
|----------------------------|--------------------|
| 1. 午後の部の趣旨説明 | 石井知彦（大教センター能力開発部長） |
| 2. アイスブレイキング | 佐藤慶太（大教センター） |
| 3. 全学共通教育の運営体制について | 寺尾 徹（大教センター共通教育部長） |
| 4. 全学共通科目の枠組みについて | 角道弘文（大教センター調査研究部長） |
| 5. 平成 31 年度全学 FD プログラムについて | 葛城浩一（大教センター） |
| 6. スキルアップ講座体験 | 西本佳代（大教センター） |
| 7. 新任教員お悩み相談 | |
| 8. 修了式 | 高橋尚志（大教センター長） |

平成 31 年度の新任教員研修会が開催されました。この研修会は、過去三年以内に本学に新たに着任した教員のうち、これまでにまだ新任教員研修会に出席していない教員を対象として行われるものです。午前中には教育・研究・地域連携・コンプライアンスなどについて、それぞれ担当の理事・副学長から説明がありました。大学教育基盤センターでは例年、午後に全学共通教育に関する説明を行っていますので、ここでは午後の部に限って報告します。

新任教員研修会の午後の部は、全ての説明と進行がアクティブ・ラーニング形式にて行われている点が特徴的です。25 名の参加者を 5 名一組の 5 つのグループに分け、それぞれの单元ごとにグループワーク形式で進められました。まず佐藤教員からグループ内の自己紹介を兼ねたアイスブレイキングが行われ、グループ内のメンバー同士の緊張を解き、以降のグループワークがスムーズに行われるための雰囲気作りが行われました。次に寺尾共通教育部長と角道調査研究部長から、それぞれ全学共通教育の運営体制と枠組についての説明がなされ、適宜グループワークを取り入れることによって理解を深



めていきました。休憩をはさみ、葛城教員より FD 受講の意義が説明され、本学で開催される全学 FD のラインナップが紹介されました。さらに西本教員より、アクティブ・ラーニング型授業の進め方の一例として、クリッカーを用いた双方向参加型授業の方法が披露されました。その後、新任教員お悩み相談の時間が設けられました。参加した新任教員からは、研究費の公募情報についての問い合わせ方や、年俸制と月給制について、など様々な質問が出され、それらに対して、大教センターのスタッフ及び各学部から選出された能力開発部委員が適切に回答を行いました。最後に高橋センター長から修了の挨拶があり、新任教員の皆さんにぜひ、学部の壁を超えて他の学部の教員とのコミュニケーションを大切に取ってもらいたい旨の訓示がありました。

新任教員研修会の午後の部は、平成 30 年度から本格実施されている「新任教員研修プログラム」の受講対象教員に対しては、その受講が必須と定められています。そこで「新任教員研修プログラム」のガイダンスも併せて開催し、どのような内容のプログラムを、なぜ受講しなければならないのかなどについて説明を行いました。今年度の新任教員研修ワークショップは 9 月 12 日(木)、13 日(金)の一泊二日で開催されます。新任教員の皆さんには引き続き参加をお願いします。(文責:石井知彦)

5. 新ネクストプログラムの紹介:ヒューマニティーズ(人文学)プログラム

今年度から、新しいネクストプログラム（自由参加型の特別教育プログラム）、「ヒューマニティーズ（人文学）プログラム」がスタートしました。学問の中には、実用性を重視する分野もあれば、「すぐに役に立つもの」に囚われずに、いろいろな角度から「人間」について考える分野もあります。このように「人間」を主題とする分野は「人文学(Humanities)」と総称されており、例えば、哲学、歴史学、芸術文化を主題とする学がここに属します。香川大学には文学部や人文学部はありません。それでも、このプログラムに参加すれば、所属する学部での学位プログラムを学びながら、人文学のさまざまな分野（哲学、歴史、芸術・文化等）の学びを深めることができます。

プログラムの仕組みを、3つの項目に分けて簡単に紹介しましょう。

(1) 修了要件単位数は、12単位です。もちろん12単位では、人文学の十分な知識を身につけることは難しいですが、「学び方」を身につけることはできるでしょう。例えを使うと、このプログラムでは、卒業後、自分でハンドルを握って人文学の深部に入り込んでいくための運転免許証交付を目的としています。テーマとしては大きく分けて、「哲学・倫理学」、「歴史学」、「芸術・文化」の学びを深めることができます。

(2) プログラムを構成する科目は、全学共通科目、学部専門科目のなかに散在する人文系の科目です。上述の通り、文学部、人文学部を擁しない香川大学ですが、よく調べてみると、実にさまざまな人文系の科目が開講されています。これをうまく組み合わせ、体系的な学びをデザインすることができます。

(3) 修了演習にあたるものとして「ヒューマニティーズプログラム課題研究」（2単位、前期、後期開講）を開設します。学生が十分な単位を修得しているにもかかわらずこの演習を履修できない、という事態が生じないよう、集中講義での開講とし、指導に関しても、学生の都合に応じてフレキシブルに対応できるようにします。

前期の申し込みでは、26名の参加希望がありました。そのうち2回生が9名、1回生が17名です。2回生の場合、これまで取得した単位のうちに、ヒューマニティーズプログラム対象科目のものがあれば、遡及的にプログラム修了要件として認められます。そのため、今年度後期には、修了生第1号が早くも出てくる可能性が高いです。

スタートを切ったばかりですが、今後、香川大学生が人文学を学ぶための場として定着するよう、担当者一丸となってプログラムを育てていければと思います。

(文責：佐藤慶太)



6. 注目の全学共通科目のご紹介

■主題 B 「はじめて学ぶ DRI」

「はじめて学ぶ DRI」が、今年度の第 1 クォーターから始まりました。この授業は、香川大学の新たな教育の柱となる DRI 教育の入門編です。また、2020 年度より本格実施される新ネクストプログラム「DRI イノベーター養成プログラム」の必修科目となり、かつこの新たなネクストプログラムの入門的な役割を担います。

そもそも、DRI とは何でしょう。聞き慣れない言葉だと思いますが、DRI とは、Design thinking (デザイン思考)、Risk management (リスクマネジメント)、Informatics (インフォマティクス) の頭文字です。

人口減少、人生 100 年時代、グローバル化、Society5.0 という視点から 2040 年の日本社会の姿を想定し、これからの時代を真に支えリードし、生き抜く力を備えた人材を育成するために、DRI 教育が必要になります。DRI 教育では、DRI 能力を身につけ、新たな価値を創造するための人材を育成します。とくに、人びとが生活している地域社会にイノベーションを創出できる人材を育成することを目的にしています。

ここからは、「はじめて学ぶ DRI」についてご説明します。授業は、全 8 回で構成されています。この授業の目的は、DRI を地域活性化にどのようにいかせるか、考え、説明することができるようになることです。具体的な授業内容は、次のとおりです。まずグループで、地域課題を確認し、その解決策を考えます。つぎに、D・R・I それぞれの専門家が、D・R・I を地域活性化にどのようにいかせるかを説明します。さらにグループで、最初に考えた地域課題の解決策を DRI の観点から捉え直し、新たな解決策を考えます。

今年度の受講者数は、69 名です。人数にばらつきがあるものの、すべての学部から学生が参加しています。授業では、学部や学年などが偏らないように、6 人あるいは 5 人で 1 つのグループをつくり、グループワークを行っています。現在各グループで考えている地域課題は、以下の通りです（待機児童のみ 2 グループ）。若者のやりたい仕事がない、待機児童、地域医療の問題点、高齢化による農業の衰退、人口減少によって衰退する伝統工芸品・伝統芸能、国の支援を受けられない準過疎地域の活性化、離島の人口減少、ダム地域の環境整備・自然保全・地域活性化・アーティスト育成、香川県のインバウンドへの対応、香川県の観光客を増加させよう、地方の観光地の活性化。これから、グループで考えた地域課題の解決策を DRI の観点から捉え直し、新たな解決策を考えます。

まだ授業の途中ですが、写真にあるように学生はグループワークに積極的に参加し、またミニレポートなどの授業外学修にもしっかりと取り組んでおり、この授業に対する意気込みが感じられます。（文責：小坂有資）



7. ホームページリニューアルのお知らせ

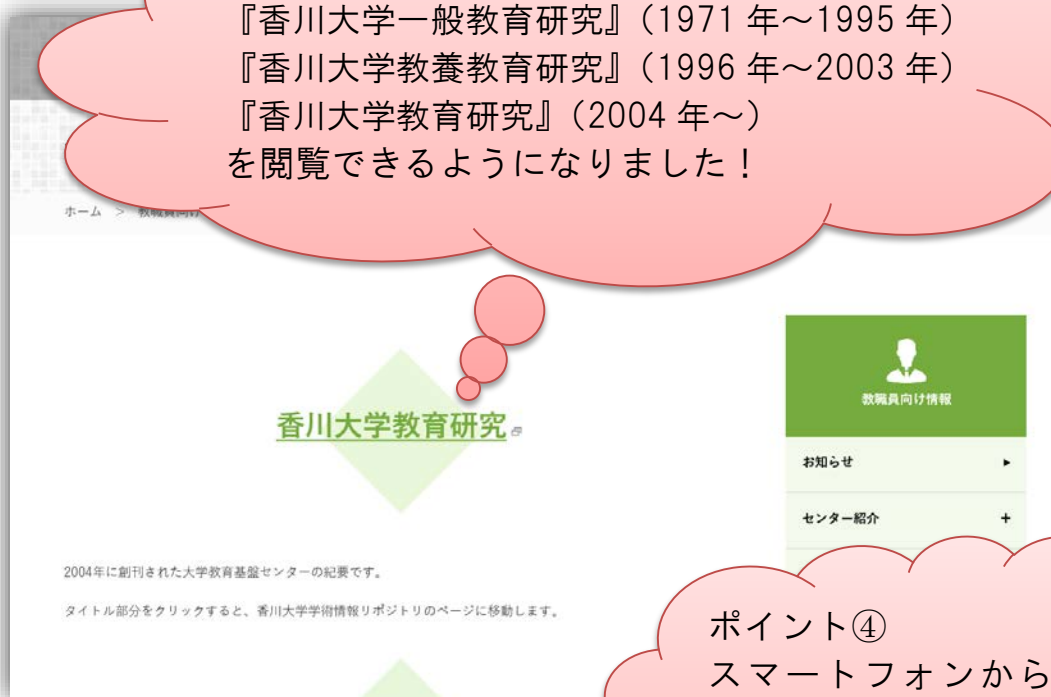
当センターのホームページの内容とデザインを一新しました。旧ホームページから新しくなったポイントは次の5点です。ぜひお立ち寄りください。

<https://www.kagawa-u.ac.jp/high-edu/>



ポイント③

『香川大学一般教育研究』（1971 年～1995 年）
『香川大学教養教育研究』（1996 年～2003 年）
『香川大学教育研究』（2004 年～）
を閲覧できるようになりました！



ポイント④

スマートフォンからの
閲覧が可能になり
ました！



ポイント⑤

DRI 教育のページを新設
しました！
今後 DRI 教育に関する情
報を随時更新していきま
す。

8. 新スタッフから一言

修学支援グループ 中 村 正 樹

平成 31 年 4 月 1 日付けで、新規採用され教育・学生支援室修学支援グループに配属されました中村正樹と申します。

3 月までは大学生だったということもあり社会人として働く新鮮さにまだまだ慣れない日々が続いています。それでも温かく、優しくご指導してくださる皆様のお役に立てる職員になれるよう努めて参ります。

修学支援グループでは毎日多くの学生さんと接する機会があります。直接学生さんに関わり働けることを考えると身が引き締まる思いであります。微力ではありますが学生さんが安心して勉学に励むことのできる環境作りに尽力したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



原稿を募集しています。

☆全学共通科目を担当して感じたことや意見等があれば、是非投稿してください。

★各学部が取り組んでいる教育改革も、積極的に取りあげていくつもりです。

☆宛先は、紀要編集委員会（修学支援グループ）までお願いします。